



官宏

かんひろし●山形県出身。昭和61年理学部卒業。高校の理科教諭を務めた後、教育センター、県教委教職員室勤務。小国高校長を経て、本年4月に県立初の併設型中高一貫校「東桜学館」初代校長に就任。

## 共育の成果

山形県内における県立初の併設型中高一貫校「東桜学館」が今年4月に誕生し、広く県民の注目や期待を集めている。その初代校長という重責を担っている官宏さんは、本学理学部出身。山形県生まれながら父親の仕事の関係で小・中・高校時代を秋田県で過ごした官さんは、生まれ故郷であり、希望する理学部のある本学に進学。物質分析のデータ収集のために大学に泊まり込みで実験を行ったり、ギタークラブでクラシックギターの腕を磨いたりと充実した大学生活を送った。卒業後は理科教諭として県内の高校で教鞭を執り、教育センターや県教育委員会での勤務を経て、十数年ぶりに小国高校の校長として教育現場に戻った。教育を行政面から支える重要性ややりがいを十分認識しつつも、やはり生徒と直接ふれあえる学校が好きで「学校に戻ったらあんな事もこんな事もしたい!」と現場復帰を切望していたという。

新任教師時代からずっと高校生を指導してきた官さんが、東桜学館では中学校と高等学校両方の校長を務めている。成長期の生徒を6年間継続して預かる責任の重さにプレッシャーを感じないわけではないが、目の前の生徒一人ひとりの成長を第一に考えるという点では今までと何ら変わらない。ただ、まだ幼さの残る中学生との交流は今までになく、とても新鮮で楽しいと表情が緩む。新設校としての意識は生徒たちの方が強いようで、「自分たちが新しい歴史を創っていく」と主体的に取り組む姿勢が見られる。そんな生徒たちにとって官さんは、親しみが感じられる校長先生のようなのだ。時には生徒たちを前に、学生時代に慣らしたギター片手に歌を披露するという。校長先生の話はなかなか記憶に残らないが、「歌う校長先生」は、きっと生徒たちの中に鮮烈な印象として残るに違いない。

真新しい校舎に加えて、電子黒板やタブレット端末といったICT(情報通信技術)環境も充実している東桜学館では、県内の大学との交流・連携も盛んだ。本学は初代校長の母校として今後ますます連携を強化していくことになるだろう。



# 山大聖火リレー



## 教育一筋、次なる活躍の場は新設校、期待の中高一貫校で生徒に寄り添う校長先生。

官宏 山形県立東桜学館中学校・高等学校 校長



長年、理科教諭として教鞭を執った知識と経験を生かし、夏休みに特別開講した化学講座の様子。受講を希望した高校3年生を対象にイキイキと指導にあたる官校長先生。



カラフルなイスが並ぶ多目的教室。探究型学習に力を入れている東桜学館では、意見の違いをイスの色で表して議論するなど、創意工夫に富んだ授業を行っている。